



登米地域の稲作通信 第5号

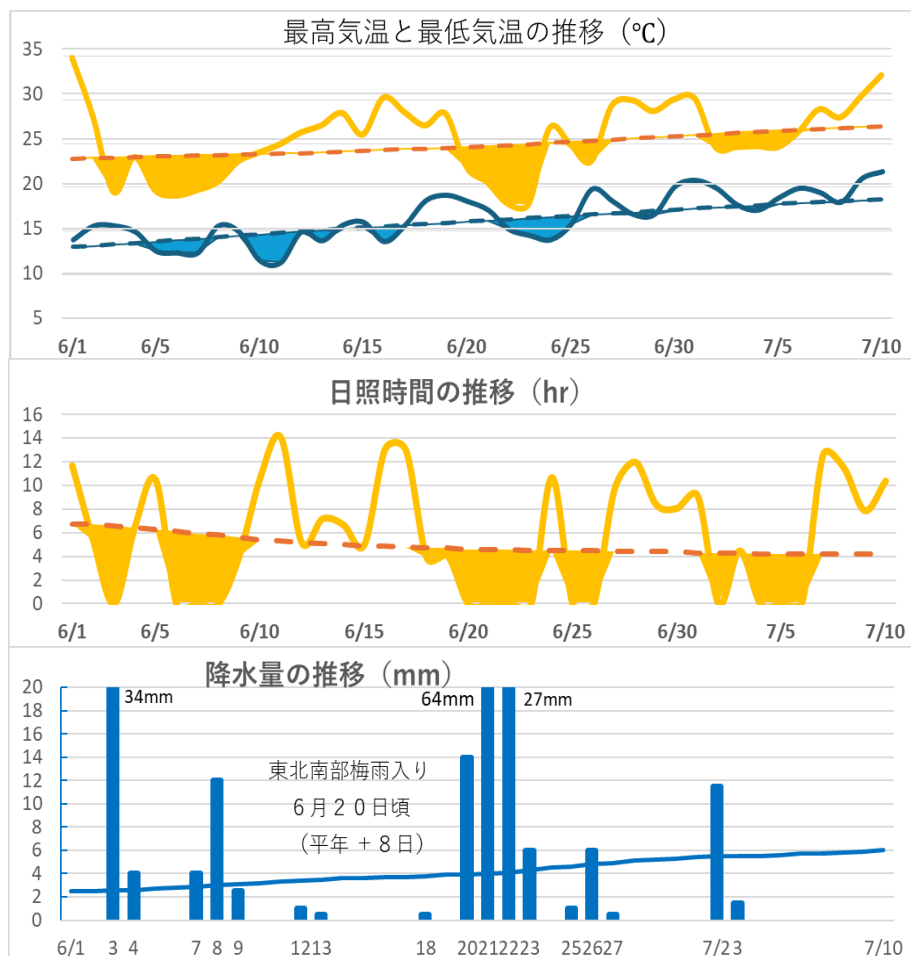
令和8年7月14日発行
宮城県米づくり推進登米地方本部
宮城県登米農業改良普及センター
Tel: 0220-22-6127



<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

【気象経過】

観測地点：米山アメダス



7月上旬(7/1～7/9時点)の平均気温は平年並に推移しました。降水量は2日～3日にかけて降雨がありましたが、雨の降らない日が続き、平年比33%と平年を下回りました。日照時間は平年比89%と平年を下回りました。7月10日時点では、本年の梅雨明けは発表されていません。

【気象経過(旬別平年差・比)】

		6月			7月		
		平均気温 (°C)	日照時間 (時間)	降水量 (mm)	平均気温 (°C)	日照時間 (時間)	降水量 (mm)
上旬	本年値	17.9	48.7	56.5	22.2	26.4	13.0
	平年値	16.4	61.5	27.9	21.4	29.7	38.9
	平年差・比	1.5	79%	203%	0.8	89%	33%
中旬	本年値	20.1	72.3	16.0			
	平年値	19.0	49.2	36.4			
	平年差・比	1.1	147%	44%			
下旬	本年値	19.9	48.9	104.5			
	平年値	19.9	44.8	46.8			
	平年差・比	0.0	109%	223%			

※上旬は1～10日まで、中旬は11～20日まで、下旬は21～31日までの期間。

※7月上旬は1～9日まで。

1 生育状況

【移植栽培】

【水稻生育調査結果(移植)】

No.	品 種	栽培タイプ	調査地点	栽植密度(株/㎡)		移植日	7月1日				7月10日				
							草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (GM)	葉数 (枚)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (GM)	葉数 (枚)	幼穂長 (mm)
1	ひとめぼれ	Cタイプ	中田町	15.9	前年比・差 -9日 -4日	5月12日	47.4 86% 93%	396 79% 83%	41.0 -1.0 -1.0	8.0 -0.6 —	55.6 81% 87%	471 90% 92%	39.3 ±0 -1.9	9.1 -0.5 —	0.2 -0.5 -0.6
2	ササニシキ	Cタイプ (復活ササニシキ)	豊里町	15.4	前年比・差 +8日 +9日	5月17日	50.6 101% 102%	477 119% 105%	42.1 7.2 3.2	9.6 — —	56.0 91% 93%	407 114% 90%	33.5 1.8 -2.8	10.7 — —	1.2 -2.2 ±0
3	にじのきらめき	高温対策技術展示ほ	中田町	15.8		5月10日	54.8	638	41.4	9.5	64.9	586	41.1	10.2	—
4	ひとめぼれ	古川農試 5/11植え	古川 農試	—	前年比・差 —	5月11日	49.5 91%	701 106%	44.4 3.0	9.1 -0.6	61.4 91%	662 104%	41.6 4.2	10.2 -0.5	1.3 -1.5
5	ひとめぼれ	古川農試 5/20植え	古川 農試	—	前年比・差 —	5月20日	41.9 82%	487 75%	44.7 3.1	8.3 -1.1	53.1 82%	630 97%	42.9 3.4	9.5 -1.0	0.2 -0.2
6	ひとめぼれ	古川農試 5/29植え	古川 農試	—	前年比・差 —	5月29日	32.0 —	345 —	42.8 —	7.5 —	48.2 —	575 —	43.6 —	9.0 —	0.0 —

※栽培タイプ「Cタイプ」：農業・化学肥料節減栽培（慣行栽培の5割減：農薬8成分、化学窒素成分3.5kg以下）

※平年値は、過去5か年（令和3年～令和7年）の平均値。「にじのきらめき」は令和8年度から設置したため平年値・前年値なし。

※古川農試5月29日植えは平年値なし。

7月10日現在の管内生育調査ほの生育状況は、ひとめぼれとササニシキいずれも、草丈・茎数・葉色ともにすべての項目で平年を下回っています。また、幼穂長はひとめぼれで0.2mmとなっており、まもなく幼穂形成期を迎えます。ササニシキでは1.2mmとなっており、幼穂形成期に達していると思われます。

古川農業試験場作況試験ほ（ひとめぼれ）の生育状況は、平年と比べて草丈は短く、茎数は概ね平年並、葉数は0.5～1.0枚少ない状況です。また、幼穂長は5/11植えで1.3mmとなっており、幼穂形成期に達しています。

【直播栽培】

【水稻生育調査結果(乾田直播)】 令和8年度から調査地点を豊里町に変更しています。

No.	品 種	栽培タイプ	調査地点	播種月日	調査結果	苗立本数 (本/㎡)	7月1日			7月10日		
							草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (GM)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (GM)
1	ササニシキ	ブライ耕 グレートリル体系	豊里町	4月20日	令和8年調査値	145.6	39.3	544	35.6	49.5	501	32.5
2	【参考】 ササニシキ	ブライ耕 グレートリル体系	米山町	4月25日	R3～7年の 平均値	79.4	41.8	370	36.5	53.3	475	37.4

※令和8年度から調査地点を豊里町に変更しています。

※2の【参考】ササニシキ(米山町)は令和3～7年の5か年間の平均値を使用しています。

7月10日現在、草丈49.5cm、茎数501本/㎡、葉色32.5(GM)となっており、順調に生育しています。また、幼穂はまだ確認することができませんでした。

2 今後の管理

(1) 生育ステージの予測

管内の過去5か年（令和3～7年）平均の出穂期は7月31日頃です。今年は生育ステージ（葉齢進展）が遅くなっていることから、出穂期も2～3日程度遅くなる見通しです。

生育ステージの予測値（7月9日現在）

移植日	5月5日	5月10日	5月15日	5月20日	5月25日
幼穂形成期	7/1～7/6	7/4～7/9	7/8～7/12	7/12～7/16	7/16～7/19
出穂期	7/24～7/31	7/28～8/4	8/3～8/7	8/7～8/10	8/10～8/13

※主穂葉齢予測モデル（普及に移す技術第 80 号）を用いた予測値。移植時葉齢を 2.5 葉～3.5 葉として予測。
平均気温は7月9日までの米山アメダスの実測値。

生育ステージの予測（古試）

表 1 作況試験ほ「ひとめぼれ」の生育ステージ予測（令和 8 年 7 月 1 日現在）

移植日	移植時 葉数	予測日			前年出穂期 (実測値)
		幼穂形成始期	減数分裂期	出穂期	
5/11	2.1	7/9	7/19	8/1	7/28
5/20	2.5	7/15	7/25	8/5	8/2

注) 幼穂形成始期及び出穂期は、「DVR法」による予測であり、減数分裂期は幼穂形成始期の10日後とした。
予測に用いた気象データは農研機構メッシュ農業気象データより得た26日先までの7日移動平均の予報値を含む。

表 2 地帯区分別の生育ステージの予測（令和 8 年 7 月 1 日現在）

地帯区分	田植盛期	幼穂形成期	減数分裂期	出穂期
北部平坦	5/12	7/7	7/17	8/2

注) 予測モデルは表1)と同じ。予測条件：①日別平均気温（各地点のアメダスデータ）、②移植時期（各地帯区分）、③移植時期の葉数（県生育調査ほ＋作況試験ほ「ひとめぼれ」平均3.0葉）。④品種：「ひとめぼれ」。
予測に用いた気象データは農研機構メッシュ農業気象データより得た26日先までの7日移動平均の予報値を含む。

☆幼穂の長さとお穂までの日数の目安

生育ステージ		出穂前日数	幼穂長	葉耳間長
幼穂形成始期		25日前	1～2mm	-10cm
減数分裂期	始期	15日前	3～4cm	
	終期	10日前	8～12cm	±0cm

（2）水管理

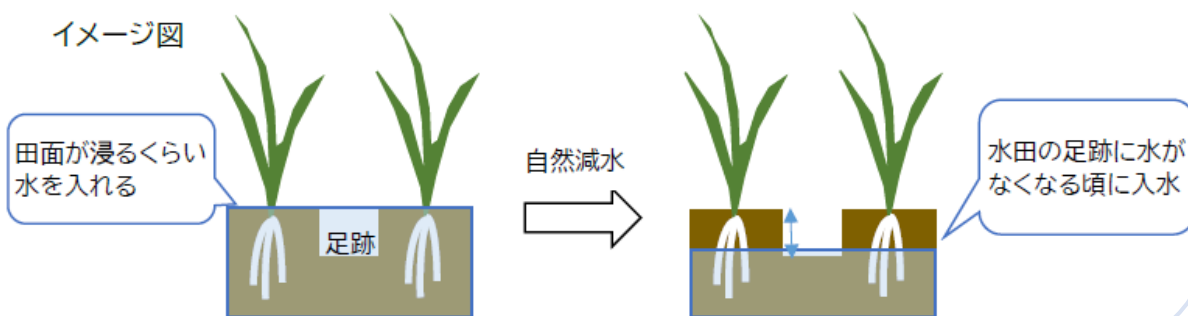
幼穂形成期に達したら、中干しを終了し間断かん水や^{ほすい}飽水管理を行い、根に酸素と水分を与えましょう。水分が不足すると、幼穂の発育や開花受精が妨げられて減収につながります。水を切らないよう管理しましょう。

☆^{ほうすい}飽水管理の方法

- ① 水尻を閉める。畦畔から漏水がないか確認する。
 - ② 田面が浸るくらい（ひたひた）に水を入れる。
 - ③ 水を止めたら、水尻は閉めたまま、自然減水させる。
 - ④ 水田の足跡に水がなくなる頃、又は番水のタイミングで次の水を入れる。
- （目安は3～5日おき）

※出穂期前後は稲体が最も水を必要とする時期です。
飽水管理を徹底し、土壌を湿った状態に保ちましょう。

イメージ図



（3）追 肥

本年の施肥窒素の減少は昨年よりも早くなっています。葉色が低下してきているほ場では追肥を実施しましょう。穂揃期以降も葉色を維持することで、高温による白未熟粒の発生を抑制することができます。

幼穂形成期追肥は下位節間の伸長につながりますので、草丈が長い、茎数が多く倒伏の危険性があるなどの場合は、幼穂形成期追肥を避け、減数分裂期に追肥しましょう。

環境保全米では、栽培期間中(育苗+本田)に使用できる化学肥料の窒素成分量が決まっています(合計 3.5kg/10a)ので、これまでの施用量を計算して追肥量を決定しましょう。

追肥時期別の施肥量

品種	窒素成分量 (kg/10a)	
	幼穂形成期（出穂25～20日前） ＜幼穂長：1～2mm＞	減数分裂期（出穂15～10日前） ＜幼穂長：30～120mm＞
ひとめぼれ、金のいぶき	1.0	1.0
ササニシキ	—	1.0～1.5
つや姫	2.0	—
だて正夢	—	2.0
つきあかり	1.0～2.0	1.0～2.0

（4）病虫害防除

【発生予報第3号】 令和8年6月24日 宮城県病虫害防除所 発表

- ・いもち病（葉いもち） 発生時期「平年並」 発生量「平年並」
- ・稲こうじ病 発生量 「平年並」
- ・紋枯病 発生量 「やや多」
- ・斑点米カメムシ類 発生時期「やや早い」 発生量「平年並」

葉いもち

茎数が多く、葉色の濃いほ場は葉いもちの発生に注意しましょう。発病が見られたときには速やかに茎葉散布剤で防除してください(環境保全米 C タイプで発生がみられた場合は JA にご相談下さい)

紋枯病対策

昨年発生したほ場では、本年も発生することが懸念されます。また、高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く、降水量は多い確率が30%と予報されているため、注意しましょう。防除時期は出穂直前の穂ばらみ期～出穂期(7月下旬～8月上旬ごろ)です。

要防除水準(収量が5%以上の減収を想定する場合)は、穂ばらみ期の発病株率が「ひとめぼれ」で18%、「ササニシキ」で10%です(環境保全米で防除を検討する場合は、JAまでご相談ください)。

稲こうじ病対策

田面に落下した厚壁孢子が越冬し、発芽することで感染します。昨年は一部のほ場で発病が見られており、前年発生が多かったほ場では土壌菌量が多いため、本年も発生するリスクがあります。また、出穂前に降雨が多いと発生が多くなる傾向があります。前年に多発したほ場では、出穂20～10日前に銅剤による予防防除を行いましょう。紋枯病と同時防除可能な水面施用剤での対応も可能です。

斑点米カメムシ類の防除

宮城県病害虫防除所の巡回調査の結果によると、水田の周辺の畦畔および水田内におけるアカスジカスミカメ成虫の発生地点率とすくい取り虫数は平年より多くなっています。

イネ科雑草(特にイタリアンライグラス等)の多い畦畔では、斑点米カメムシ類が誘引されて産卵・繁殖する場所となり、斑点米被害につながる可能性が高くなります。計画的に畦畔の除草を行いましょう。ただし、出穂期前後の草刈りは水田内に斑点米カメムシ類を追い込むことになりますので、畦畔草刈りは水稻の出穂15～10日前までに終了するようにしましょう。

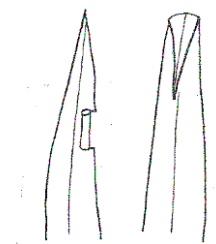
今年の管内の平均出穂期は8月1日ごろになる見通しですので、7月20日ごろまでには草刈りを終了するようにしましょう。

イネツトムシ(イチモンジセセリ)の防除

イネツトムシの葉の食害による減収被害は大きく、特に上位葉が被害を受けた場合は登熟の阻害、または葉が綴られ穂が折損する場合があります。防除の対象になるのは8月上旬頃に発生する第2世代幼虫です。株当たり0.5個以上のツトが見られる場合は防除を行いましょう。

防除適期は若齢幼虫期の短い期間に限られます。若齢幼虫の形成するツトを見逃さないように注意してください。

特に、葉色の濃い稲や生育ステージの遅い稲(直播栽培を含む)を好んで産卵する傾向があるので、これらのほ場では発生に注意してください。



若齢幼虫の形成するツト

(7/11~8/10) 7月9日暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

東北地方の向こう1か月の天候の見通し (7/11~8/10)

(令和8年7月9日発表) 仙台管区气象台

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。

平均気温	低10	並40	高50%	高い見込み
降水量	少30	並40	多30%	ほぼ平年並の見込み
日照時間	少30	並40	多30%	ほぼ平年並の見込み

農薬危害防止運動実施中 (令和8年6月1日から8月31日まで)

農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため農薬は適正に使用しましょう。

7月から9月は夏の熱中症等声かけ期間です！

「いのちをうばう、夏のひとり作業」
一人ひとりの「大丈夫？」が、命を守ります。
この夏は熱中症による死亡者0を目指しましょう！